

# 第6次鶴ヶ島市総合計画 後期基本計画の策定に向けて（案）

総合政策部 政策推進課

**総合計画とは**

**総合計画の概要**

**市民意識調査結果**

**転出・転入アンケート調査結果**

**後期基本計画策定に向けて**

# 総合計画とは

総合計画の概要

市民意識調査結果

転出・転入アンケート調査結果

後期基本計画策定に向けて

## ○ 総合計画とは…

⇒ これからの鶴ヶ島市をどのようなまちにしていくのかを描いた、「まちづくりの指針」となるもの

## ○ これまでの策定経緯

⇒ 昭和47年に初めての総合計画を策定  
(以降、約10年ごとに新しい計画を策定)

⇒ 現在の総合計画は **6番目 (第6次)**  
(計画期間は令和2～11年度の10年間)

## ○ 総合計画の法的な位置づけ

⇒地方自治法改正前

総合計画については、地方自治法第2条第4項において、市町村に対し、総合計画の基本部分である「基本構想」について議会の議決を経て定めることが義務づけされていた。

### 【地方自治法第2条第4項(改正前)】

市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。 ⇒削除

## ⇒地方自治法改正後

国の地域主権改革の下、平成23年5月2日に「地方自治法の一部を改正する法律」が公布され、基本構想の法的な策定義務がなくなり、策定及び議会の議決を経るかどうかは市の独自の判断に委ねられる。

同日付けで総務大臣から、地方自治法第96条第2項の規定に基づき、引き続き、市町村の判断で、地方議会の議決を経て基本構想の策定を行うことが可能である旨の通知が出された。

## 《地方自治法第96条》

普通地方公共団体の議会は、次に掲げる事件を議決しなければならない。

- 一 条例を設け又は改廃すること。
- 二 予算を定めること。
- ： (略)

- 2 前項に定めるものを除くほか、普通地方公共団体は、条例で普通地方公共団体に関する事件（法定受託事務に係るものを除く。）につき議会の議決すべきものを定めることができる。

## ○ 鶴ヶ島市における総合計画の取扱い

⇒ 鶴ヶ島市総合計画の策定に関する条例を制定  
(平成27年3月30日施行)

基本構想及び基本計画から構成される総合計画の策定を条例に規定

《鶴ヶ島市総合計画の策定に関する条例》一部抜粋  
(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 総合計画 市の最上位計画として、目指すべき市の将来像を掲げるとともに、その実現に向けた取組の基本方針を明らかにし、総合的かつ計画的な行政の運営の指針を示すものであって、基本構想及び基本計画からなるものをいう。
- (2) 基本構想 市の特性及び課題を踏まえ、目指すべき市の将来像を掲げ、その実現に向けたまちづくりの基本的な方向性を示すものをいう。
- (3) 基本計画 基本構想における目指すべき市の将来像及びまちづくりの基本的な方向性を踏まえた施策及び取組を体系的に示すものをいう。

(総合計画の策定)

第3条 市は、総合的かつ計画的な行政の運営を図るため、市民の意見を反映させるために必要な措置を講じた上で、総合計画を策定するものとする。

## ○ 総合計画を議会の議決事項に

鶴ヶ島市議会基本条例の一部改正（平成27年3月30日施行）

《鶴ヶ島市議会基本条例》一部抜粋

（議決すべき事件）

第8条 地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第96条第2項の規定による議会の議決すべき事件は、鶴ヶ島市総合計画の策定に関する条例（平成27年条例第2号）第2条第2号の基本構想及び同条第3号の基本計画の策定、変更又は廃止とする。



総合計画とは

**総合計画の概要**

市民意識調査結果

転出・転入アンケート調査結果

後期基本計画策定に向けて

# 次の3つで構成

- **基本構想**：おおむね10年先の目指すべき市の方向性を示すもの
- **基本計画**：前期・後期それぞれの5か年の取組を体系化したもの  
▶ 一つの冊子に整理
- **実施計画**：基本計画に基づき、具体的な実施事業をまとめた3か年の計画  
▶ 毎年別冊で作成



<年度>

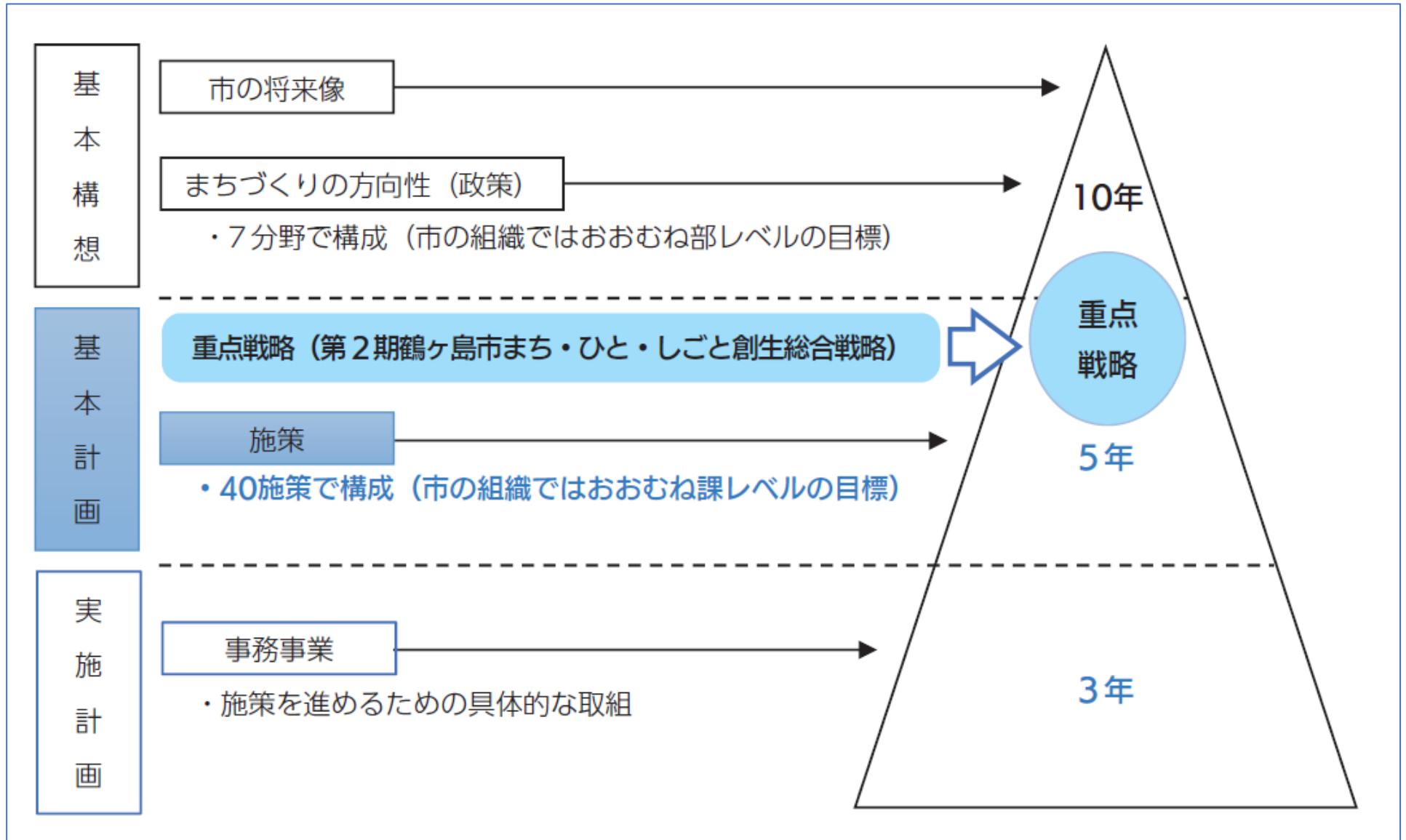
2      3      4      5      6      7      8      9      10      11

## 基本構想

前期基本計画

後期基本計画

実施計画 (3か年計画を策定し、毎年度改訂)



**特性 = 市がこれまでに培い、先人から受け継いできた“強み”**

## 多彩な人と団体に恵まれたまち

- 明治時代に鶴ヶ島村ができてから、他の自治体と合併することなく発展してきました。
- 昭和後期に多くの人が入り、さまざまな市民活動団体が生まれました。

## 身近な自然と調和した地の利があるまち

- 南西部地域を中心に農地や樹林地、水辺などの武蔵野の原風景が残されています。
- 市域が小さく、自然と共存した市街地が広がっています。
- 関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道のインターチェンジを有する地の利があります。

# 魅力ある地域社会をつくり、 将来にわたって市の活力を維持する

急速な少子高齢化と、本格的な人口減少が始まる見込み



年齢構成の変化と人口減少を前提とした  
『**持続可能**なまちづくり』が必要

10年後の鶴ヶ島の“ありたい姿”、“あるべき姿”は・・・

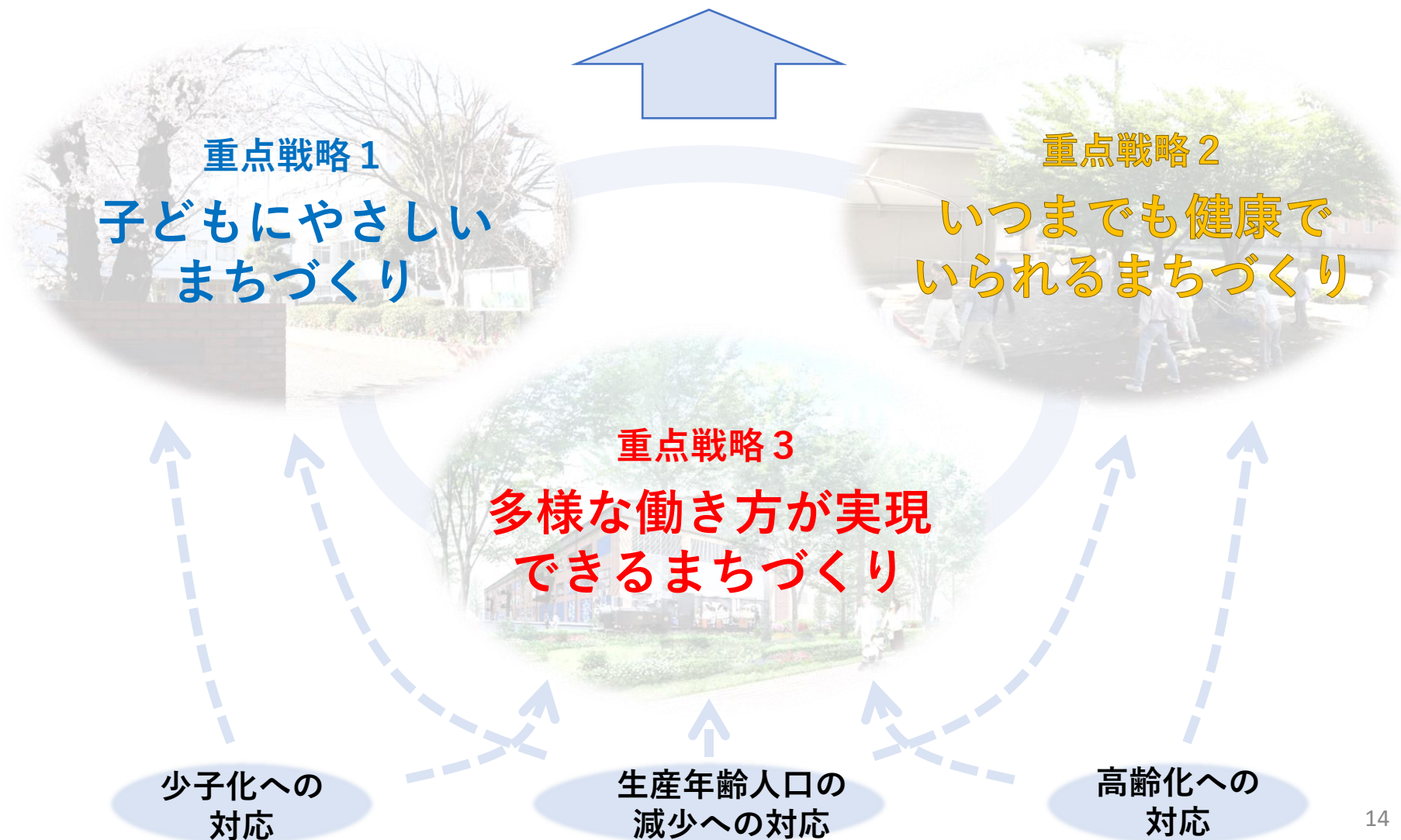
# しあわせ共感 安心のまち つるがしま

誰もがお互いを認めあい、  
共にしあわせを感じられるまち。

誰もが安心に包まれ、  
ゆたかに生きていくことができるまち。



# 市の将来像「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」の実現





## 重点戦略1 子どもにやさしいまちづくり

未来を担う子どもたちのためには、子育てがしやすく、子ども自身も楽しめる環境が何よりも大切です。

子育て世帯を中心とした若い世代に選ばれ、住み続けてもらうことはもちろん、子どもたちが一度市外へ出たとしても「将来、自分が子育てするときには、また鶴ヶ島に帰ってきたい」と思えるまちをつくります。

- (1) 妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実**
- (2) 新しい時代を生きる子どもたちへの教育の充実**
- (3) 安心して子育てができる環境の整備**



## 重点戦略2 いつまでも健康でいられるまちづくり

心身の健康は、何ものにも代えがたい大切なものです。住む人が健康であることで、まちそのものが健康になります。

人生100年時代といわれる中、いくつになっても元気で、生涯にわたり健康で暮らせるまちをつくります。

**(1) 多様な主体による健康づくりの推進**

**(2) 外出したくなる環境の整備**

**(3) 社会参加の促進**

## 重点戦略3 多様な働き方が実現できるまちづくり

“しごと”は、生活の基盤を築き、社会とつながり、より良い暮らしを実現するために欠かすことができないものです。

生活が多様化している中、求められる働き方もさまざまですが、誰もが自分に合った働き方を実現できるまちをつくります。

- (1) 圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域の整備・活用
- (2) 職住近接を中心とした時間と心のゆとりの創出
- (3) 多様な担い手の活躍の促進

## 政策1 安心して暮らせるまち（福祉）

市民誰もが、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちをつくりま

## 政策2 豊かな人が育つまち（教育・文化）

地域が一体となって、未来を担う子どもたちを育み、生涯を通じた学習・文化・スポーツ活動を促進し、豊かな人が育つまちをつくりま

## 政策3 いきいきと暮らせるまち（保健）

子どもから高齢者までのすべての市民が、健康でいきいきと暮らせるまちをつくりま

## 政策4 活力にあふれるまち（市民生活）

多様な人びとがつながり、誰もが活躍できる、市民参加による活力あふれるまちをつくりま

## 政策5 魅力とにぎわいのあるまち（産業・環境）

自然との調和をとりながら地域資源の活用・創出を図り、市に関わるすべての人が魅力とにぎわいを感じるまちをつくりま

## 政策6 快適で住みよいまち（都市整備）

生活の質を高める都市基盤の整備や維持管理を計画的に行うことにより、快適で住みよいまちをつくりま

## 政策7 経営的視点に立った市政運営（市政運営）

市の経営資源を最大限活用し、“顔”が見える市役所として市民満足度・職員満足度の向上を図り、市民サービスの最大化を目指



## 「人と環境が共存する持続可能で計画的な土地利用を図る」

### あるべきまちの姿

#### ①都市と農村の調和

都市部における居住空間と農村部における農地や緑・水辺などの自然とが調和した土地利用

#### ②拠点の形成と市街地の有機的な連携

- ・ 鉄道駅周辺地区および圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地区を拠点地区として整備
- ・ 拠点地区と市街地間の移動をしやすく、近隣自治体との広域連携が図られるよう、幹線道路や公共交通網を形成



### 8つにゾーニング

①産業系ゾーン

②自然とにぎわいの協調ゾーン

③商業系ゾーン

④工業系ゾーン

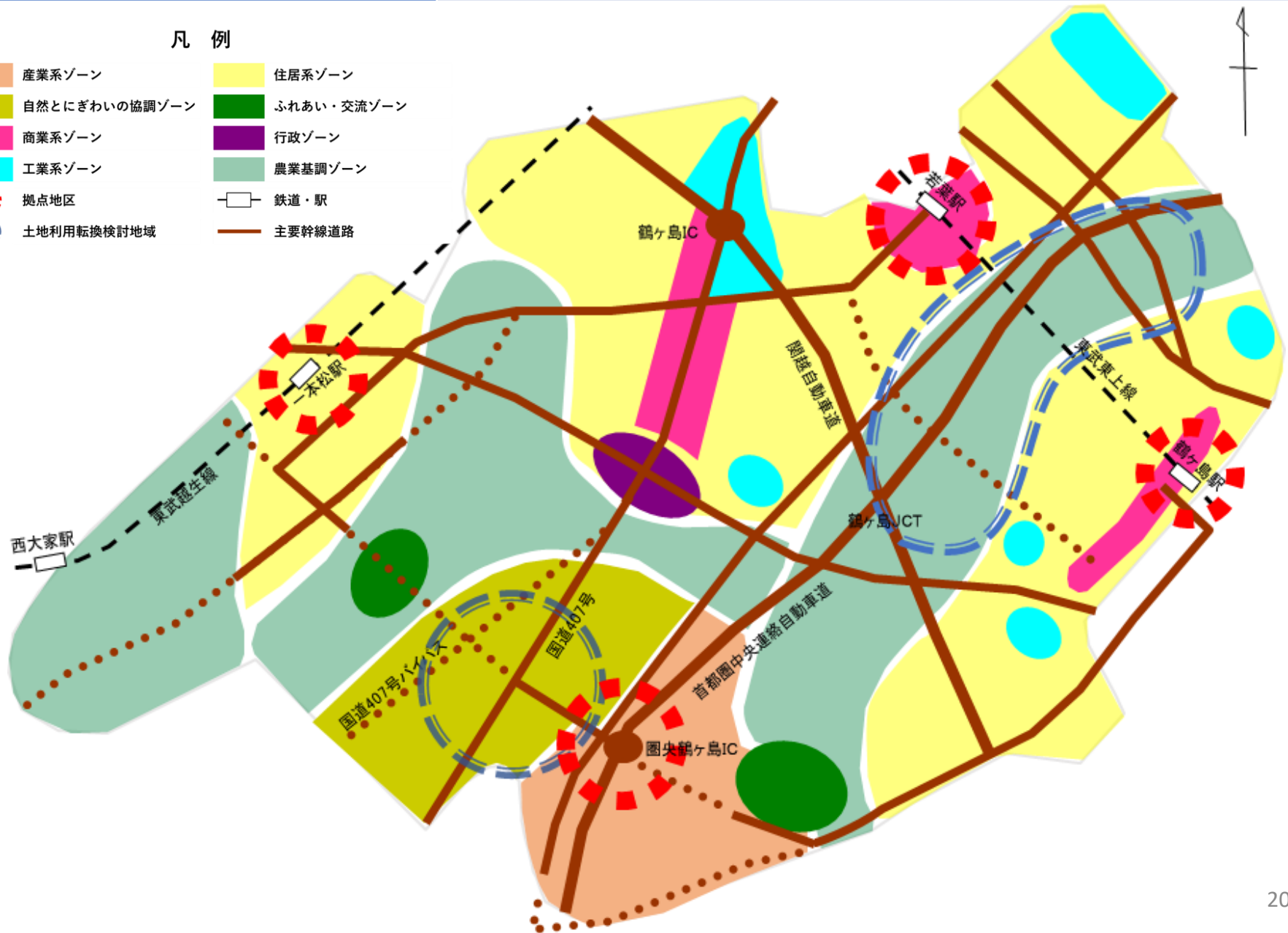
⑤住居系ゾーン

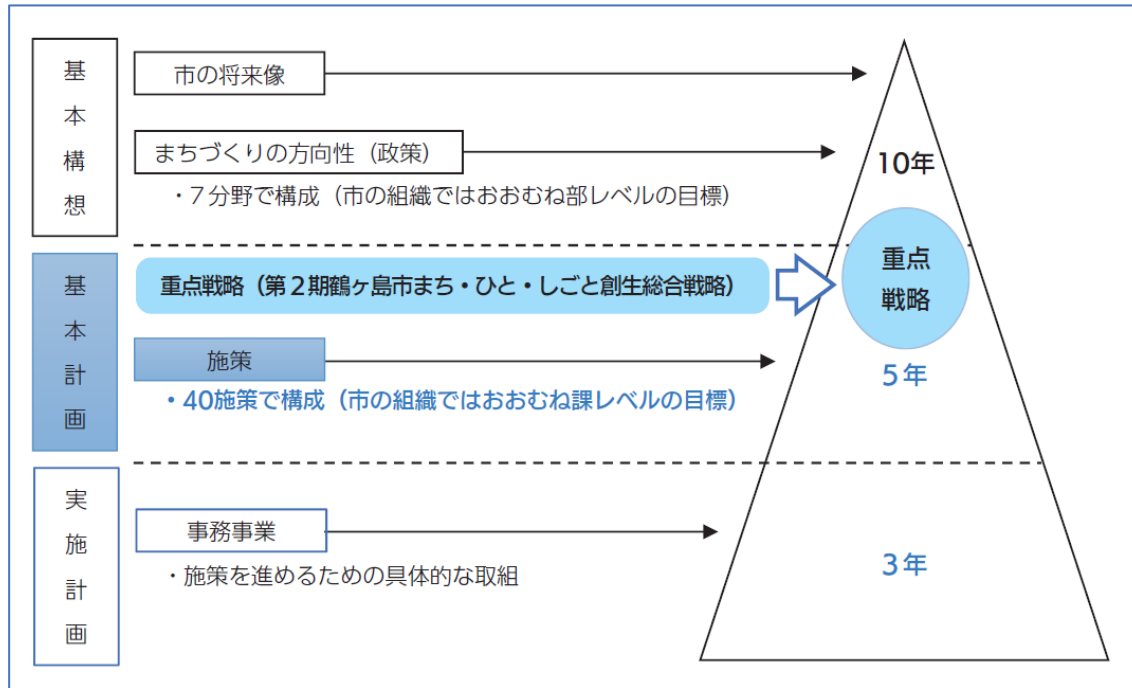
⑥ふれあい・交流ゾーン

⑦行政ゾーン

⑧農業基調ゾーン

- 凡 例
- 産業系ゾーン
  - 住居系ゾーン
  - 自然とにぎわいの協調ゾーン
  - ふれあい・交流ゾーン
  - 商業系ゾーン
  - 行政ゾーン
  - 工業系ゾーン
  - 農業基調ゾーン
  - 拠点地区
  - 鉄道・駅
  - 土地利用転換検討地域
  - 主要幹線道路



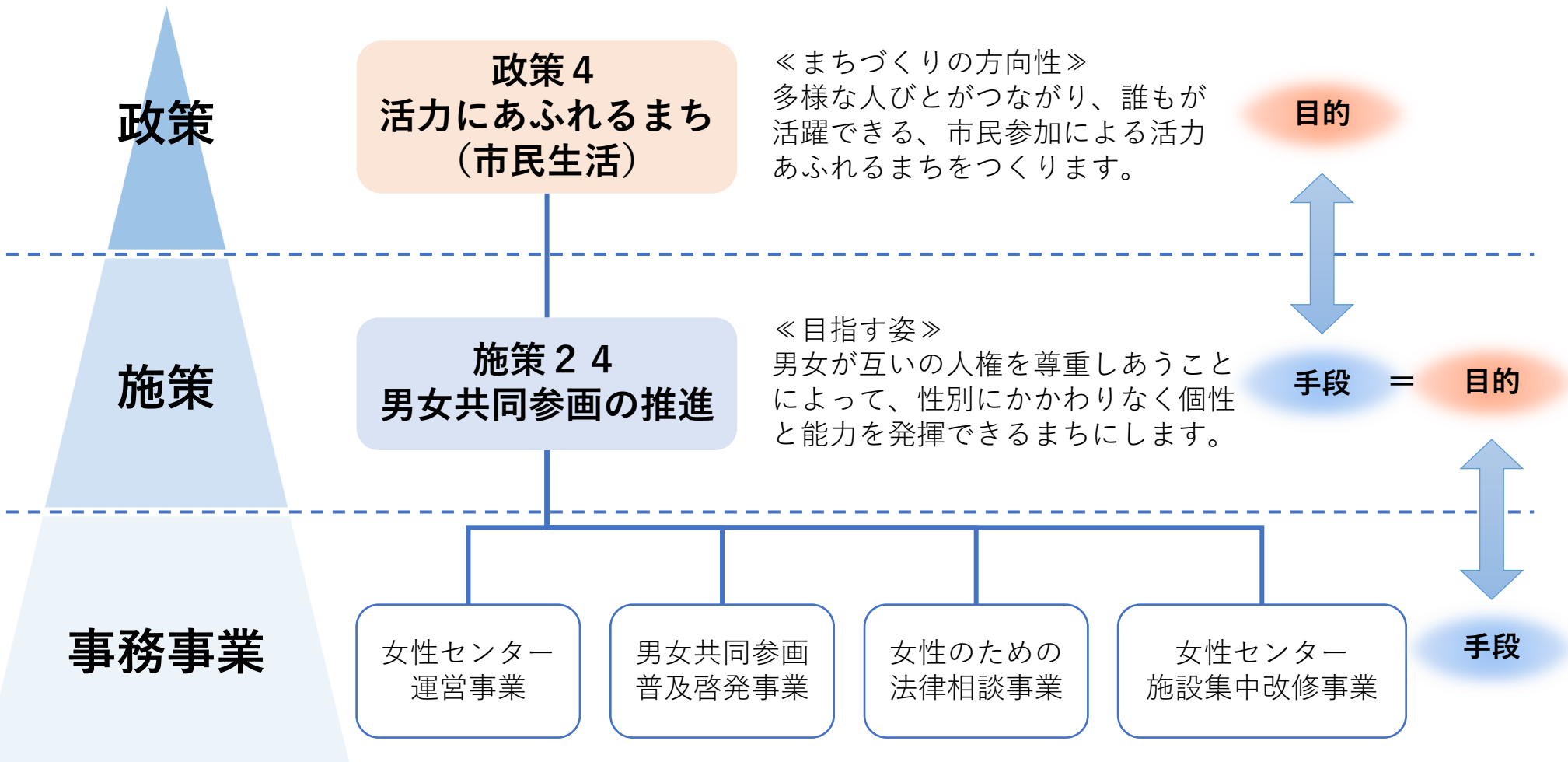


「まちづくりの方向性（政策）」「施策」「事務事業」は、市の将来像を実現するための手法を階層ごとに体系化したものです。目的と手段の関係で表すと、上位の階層と下位の階層とが、目的とそれを達成するための手段という関係になり、さらにこの手段が目的となって、それを達成するための手段が下位につながる関係になります。

それぞれの階層の目的と手段という関係が有効に機能して、「基本構想」に掲げた市の将来像を実現するように取り組んでいきます。

政策	施策
政策1 安心して暮らせるまち（福祉）	施策1 地域福祉の推進
	施策2 生活の安定と自立への支援
	施策3 子ども・家庭への支援の充実
	施策4 地域連携による子育て支援の充実
	施策5 幼児教育・保育の充実
	施策6 障害や生きづらさを抱える人への支援
政策2 豊かな人が育つまち（教育・文化）	施策7 未来を創り出す力を育む教育の推進
	施策8 教育環境の充実
	施策9 生涯学習・スポーツの振興
	施策10 歴史・文化の継承と芸術の振興
政策3 いきいきと暮らせるまち（保健）	施策11 健康づくりの推進
	施策12 地域保健・地域医療の充実
	施策13 高齢者が安心できる生活の支援
	施策14 介護予防・介護サービスの充実
	施策15 医療保険・年金制度の適正な運営
政策4 活力にあふれるまち（市民生活）	施策16 地域コミュニティの充実
	施策17 地域の拠点機能の充実
	施策18 防災対策の充実
	施策19 消防・救急体制の充実
	施策20 交通安全対策の充実
	施策21 防犯対策の充実
	施策22 消費者の安全確保
	施策23 人権・平和意識の醸成
	施策24 男女共同参画の推進
	施策25 多文化交流の推進
政策5 魅力にとぎわいのあるまち（産業・環境）	施策26 商工業の振興と地域資源の活用
	施策27 雇用の創出と就労対策の充実
	施策28 農業の振興
	施策29 環境保全の推進
	施策30 循環型社会と環境美化の推進
政策6 快適で住みよいまち（都市整備）	施策31 適正かつ合理的な土地利用の推進
	施策32 市街地整備の推進
	施策33 良好な住環境の推進
	施策34 公園の整備と緑化の推進
	施策35 道路環境の整備
	施策36 公共交通の充実
政策7 経営の視点に立った市政運営（市政運営）	施策37 持続可能な行政経営の推進
	施策38 ファシリティマネジメントの推進
	施策39 情報発信・収集の充実
	施策40 情報化の推進

《具体例》



## ● 市民ニーズの把握

市民意識調査

団体ヒアリング

転出・転入アンケート調査

市民広聴会

《進行中》

### ● 前期基本計画の評価

前期基本計画の施策評価、後期基本計画に向けた課題の整理  
後期基本計画の施策の検討

### ● データ分析

基礎調査（人口・財政状況・産業など）



総合計画とは

総合計画の概要

**市民意識調査結果**

転出・転入アンケート調査結果

後期基本計画策定に向けて

## 調査概要

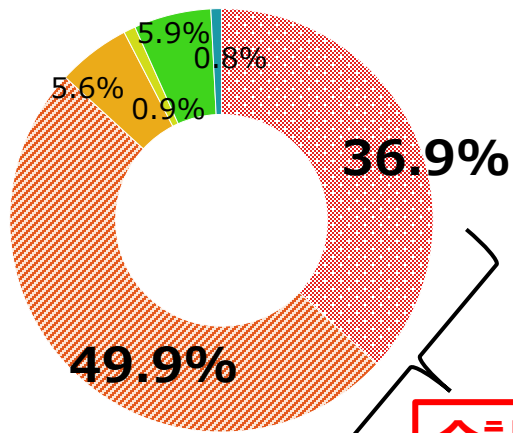
- **対象**：市内在住の18歳以上の方から2,000人を無作為に抽出
- **実施期間**：令和5年8月10日～8月31日
- **調査方法**：郵送またはインターネットによるアンケート方式
- **回収数**：968票（郵送790票、インターネット178票）
- **回収率**：48.4%

## 回答者の属性

- **回答者の属性**：男性が約4割、女性約5割
- **年齢**：18～49歳が約3割、60歳以上が約5割

- 「好きである」と「まあまあ好きである」を合わせた、“市に愛着がある市民”の割合は、**86.8%**と高い。
- 職業別にみると、学生の《好きである》の割合が、**95.7%**と高い。

鶴ヶ島市への愛着（2023年）

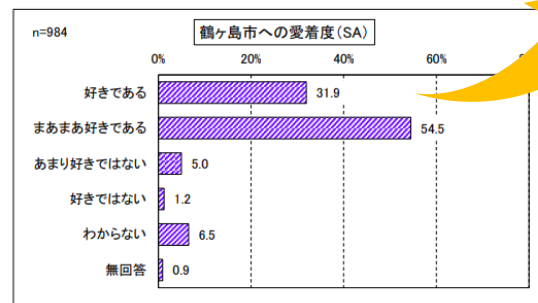


**合計86.8%**

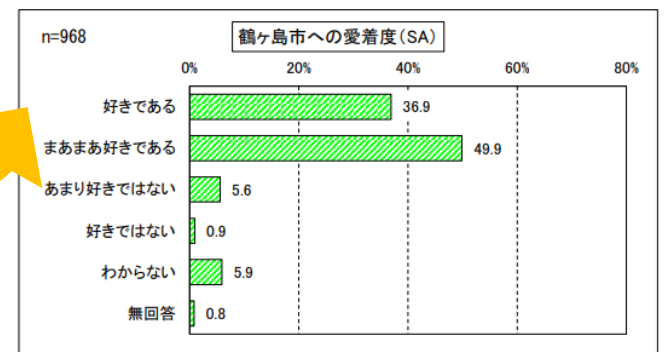
- 好きである**
- まあまあ好きである**
- あまり好きではない
- 好きではない
- わからない
- 無回答

	計（人）	好きである	まあまあ好きである	あまり好きではない	好きではない	わからない	無回答
農業(n=7)	7	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
自営業(商業・サービス等)(n=46)	46	39.1	45.7	10.9	0.0	4.3	0.0
自営業(製造業等)(n=6)	6	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会社員・団体職員(n=266)	266	36.1	51.1	4.9	1.1	6.8	0.0
公務員(n=42)	42	38.1	47.6	7.1	0.0	7.1	0.0
パート・アルバイト・派遣社員(n=166)	166	34.3	50.0	7.8	0.6	7.2	0.0
家事専業(n=120)	120	35.8	53.3	3.3	1.7	5.0	0.8
<b>学生(n=23)</b>	<b>23</b>	<b>34.8</b>	<b>60.9</b>	0.0	0.0	4.3	0.0
無職(n=258)	258	38.8	48.1	4.7	1.2	5.4	1.9
その他(n=27)	27	37.0	48.1	11.1	0.0	3.7	0.0

【平成 30 年 8 月】



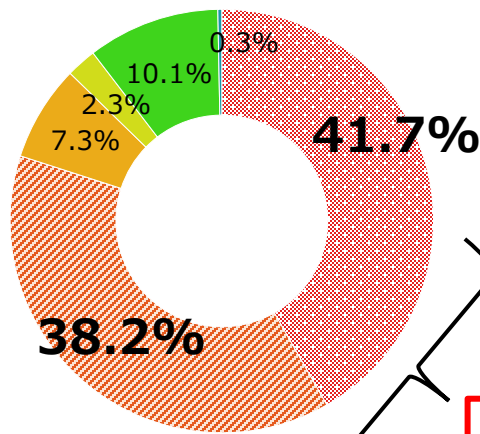
【令和 5 年 8 月】



「好きである」が **5%アップ**

- 「ずっと住み続けたい」と「ある程度住み続けたい」を合わせた“今後も住み続けたい市民”の割合は、約8割。
- 年齢別にみると、若い世代（18～29歳）ほど居住意向が低い。⇒学生は愛着はあるが、居住意向は低い。

今後の居住意向（2023年）



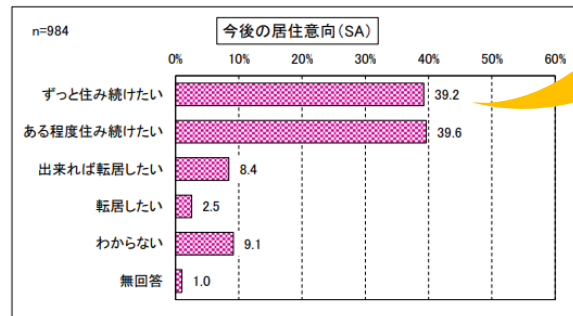
合計79.9%

■ **ずっと住み続けたい**  
 ■ **ある程度住み続けたい**

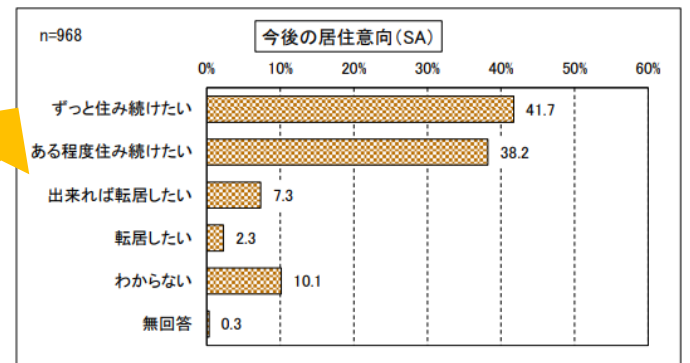
- 出来れば転居したい
- 転居したい
- わからない
- 無回答

	計（人）	ずっと住み続けたい	ある程度住み続けたい	出来れば転居したい	転居したい	わからない	無回答
18歳～29歳(n=66)	66	15.2	36.4	21.2	7.6	19.7	0.0
30歳～39歳(n=99)	99	30.3	44.4	10.1	3.0	12.1	0.0
40歳～49歳(n=146)	146	30.8	46.6	7.5	2.7	12.3	0.0
50歳～59歳(n=169)	169	35.5	42.6	6.5	3.6	11.8	0.0
60歳～69歳(n=159)	159	46.5	39.6	3.1	1.3	9.4	0.0
70歳～79歳(n=222)	222	52.7	34.7	5.0	0.9	6.8	0.0
80歳以上(n=99)	99	65.7	20.2	8.1	0.0	5.1	1.0

【平成 30 年 8 月】



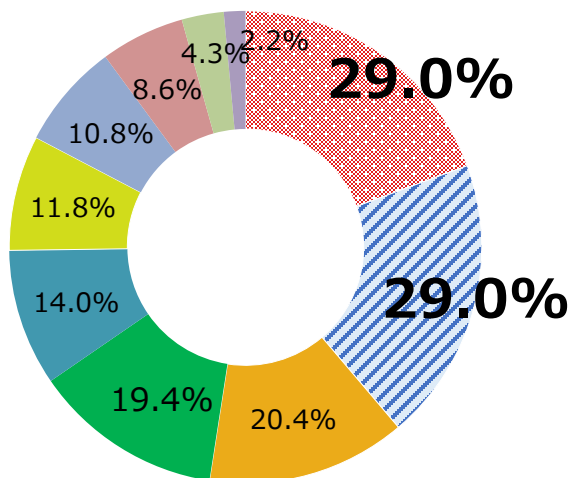
【令和 5 年 8 月】



「ずっと住み続けたい」が 2.5%アップ

- 転居したい理由として「生活に不便である」と「通勤・通学に時間がかかる」の割合が多い。
- 年齢別にみると、若い世代は「通勤・通学に時間がかかる」の割合が特に高い。

転居したい理由（2023年）



	計（人）	生活に不便である	自然環境が悪い	文化・教育環境が悪い	通勤・通学に時間がかかる	道路事情が悪い	バスや鉄道等の利便性が悪い	隣近所との人間関係	市に対する郷土意識が持てない	その他	無回答
全体(n=93)	139	29.0	8.6	19.4	29.0	4.3	20.4	11.8	10.8	14.0	2.2
性別											
男(n=37)	51	29.7	8.1	21.6	21.6	5.4	10.8	8.1	10.8	21.6	0.0
女(n=52)	82	25.0	9.6	19.2	36.5	3.8	23.1	15.4	11.5	9.6	3.8
年齢											
18歳～29歳(n=19)	22	15.8	0.0	10.5	52.6	0.0	15.8	5.3	5.3	10.5	0.0
30歳～39歳(n=13)	19	30.8	7.7	15.4	46.2	0.0	23.1	0.0	15.4	7.7	0.0
40歳～49歳(n=15)	32	33.3	13.3	13.3	46.7	6.7	20.0	20.0	20.0	13.3	0.0
50歳～59歳(n=17)	27	41.2	17.6	23.5	5.9	0.0	29.4	5.9	11.8	17.6	5.9
60歳～69歳(n=7)	11	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9	0.0
70歳～79歳(n=13)	18	23.1	15.4	0.0	15.4	7.7	23.1	23.1	15.4	7.7	7.7
80歳以上(n=8)	8	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0

### 生活に不便である

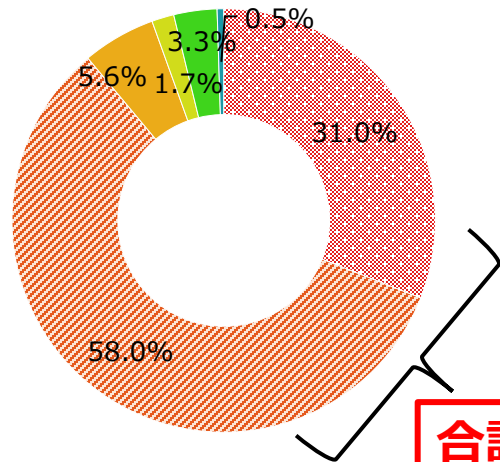
- バスや鉄道等の利便性が悪い
- その他
- 市に対する郷土意識が持てない
- 道路事情が悪い

### 通勤・通学に時間がかかる

- 文化・教育環境が悪い
- 隣近所との人間関係
- 自然環境が悪い
- 無回答

○ 「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせた“住みよいと感じている市民”の割合は、約9割と高い。

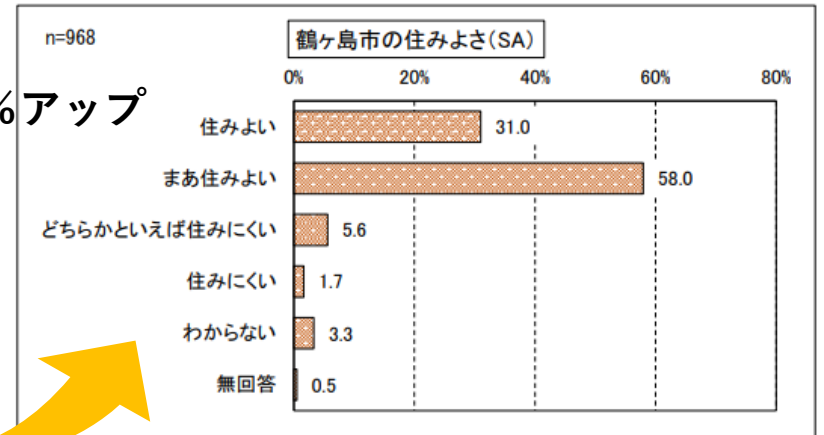
鶴ヶ島市の住みやすさ（2023年）



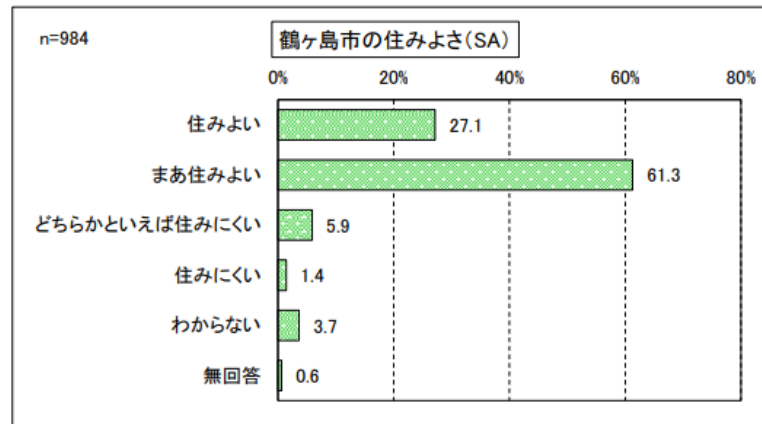
- 住みよい
- まあ住みよい
- どちらかといえば住みにくい
- 住みにくい
- わからない
- 無回答

「住みよい」が約4%アップ

【令和5年8月】



【平成30年8月】



○ 全ての年代で、「施策1 地域福祉の推進」「施策19 消防・救急体制の充実」に対する満足度が低い。

満足度 **上位** 5項目

1位	施策40	情報化の推進
2位	施策26	商工業の振興と地域資源の活用
3位	施策27	雇用の創出と就労対策の充実
4位	施策39	情報発信・収集の充実
5位	施策38	ファシリティマネジメントの推進

満足度 **下位** 5項目

1位	施策1	地域福祉の推進
2位	施策19	消防・救急体制の充実
3位	施策11	健康づくりの推進
4位	施策22	消費者の安全確保
5位	施策18	防災対策の充実

- 全体では、「地域福祉の推進」に対する重要度が高い。
- 30～40歳代の子育て世代では、子育てや教育に関する施策の重要度が高い。

重要度 **上位** 5項目

1位	施策1	地域福祉の推進
2位	施策3	子ども・家庭への支援の充実
3位	施策8	教育環境の充実
4位	施策21	防犯対策の充実
5位	施策13	高齢者が安心できる生活の支援

重要度 **下位** 5項目

1位	施策38	ファシリティマネジメントの推進
2位	施策24	男女共同参画の推進
3位	施策25	多文化交流の推進
4位	施策28	農業の振興
5位	施策23	人権・平和意識の醸成



高

満足度

低

<p><b>平準化領域</b> [高満足度×低重要度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 歴史・文化の継承と芸術の振興</li> <li>16 地域コミュニティの充実</li> <li>17 地域の拠点機能の充実</li> <li>20 交通安全対策の充実</li> <li>27 雇用の創出と就労対策の充実</li> <li>28 農業の振興</li> <li>31 適正かつ合理的な土地利用の推進</li> <li>32 市街地整備の推進</li> <li>38 ファシリティマネジメントの推進</li> <li>39 情報発信・収集の充実</li> <li>40 情報化の推進</li> </ul>	<p><b>維持領域</b> [高満足度×高重要度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6 障害や生きづらさを抱える人への支援</li> <li>7 未来を創り出す力を育む教育の推進</li> <li>9 生涯学習・スポーツの振興</li> <li>21 防犯対策の充実</li> <li>26 商工業の振興と地域資源の活用</li> <li>34 公園の整備と緑化の推進</li> <li>35 道路環境の整備</li> <li>36 公共交通の充実</li> <li>37 持続可能な行政経営の推進</li> </ul>
<p><b>再検討領域</b> [低満足度×低重要度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>11 健康づくりの推進</li> <li>19 消防・救急体制の充実</li> <li>22 消費者の安全確保</li> <li>23 人権・平和意識の醸成</li> <li>24 男女共同参画の推進</li> <li>25 多文化交流の推進</li> <li>29 環境保全の推進</li> <li>30 循環型社会と環境美化の推進</li> <li>33 良好な住環境の推進</li> </ul>	<p><b>重点化領域</b> [低満足度×高重要度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域福祉の推進</li> <li>2 生活の安定と自立への支援</li> <li>3 子ども・家庭への支援の充実</li> <li>4 地域連携による子育て支援の充実</li> <li>5 幼児教育・保育の充実</li> <li>8 教育環境の充実</li> <li>12 地域保健・地域医療の充実</li> <li>13 高齢者が安心できる生活の支援</li> <li>14 介護予防・介護サービスの充実</li> <li>15 医療保険・年金制度の適正な運営</li> <li>18 防災対策の充実</li> </ul>

低

重要度

高

**重点化領域：低満足度×高重要度**

施策1 地域福祉の推進

施策2 生活の安定と自立への支援

施策3 子ども・家庭への支援の充実

施策4 地域連携による子育て支援の充実

施策13 高齢者が安心できる生活の支援

施策14 介護予防・介護サービスの充実

施策15 医療保険・年金制度の適正な運営

施策18 防災対策の充実

イメージする言葉

1位 **安全**

2位 **安心**

3位 **健康**

4位 **自然**

5位 **福祉**

目指すべき姿

1位 **医療や福祉が充実し、誰もが健康で安心して暮らせるまち**

2位 災害や犯罪がない安心・安全なまち

3位 住宅や公園、下水道などが整備され、快適な生活環境の中で暮らせるまち

4位 道路や鉄道などの交通が整備され、どこでも気軽に行き来ができるまち

5位 教育環境が整い、子どもたちを伸び伸びと育てることができるまち

総合計画とは

総合計画の概要

市民意識調査結果

**転出・転入アンケート調査結果**

後期基本計画策定に向けて

## 調査概要

### ■ 対象及び実施期間

- ①**郵送調査**：令和4年4月1日から令和5年3月31日に間に市内から転出または市内へ転入した18歳以上の方から2,000人を無作為に抽出
- ②**窓口調査**：令和5年8月10日から9月12日の間に窓口で転出入の手続きをした方（90人）

### ■ 調査方法：郵送またはインターネットによるアンケート方式

### ■ 回収数：転出 308票、転入 323票

### ■ 回収率：転出 29.9%、転入 30.6%

## 回答者の属性

### ■ 回答者の属性：男性約 4 割、女性約 6 割

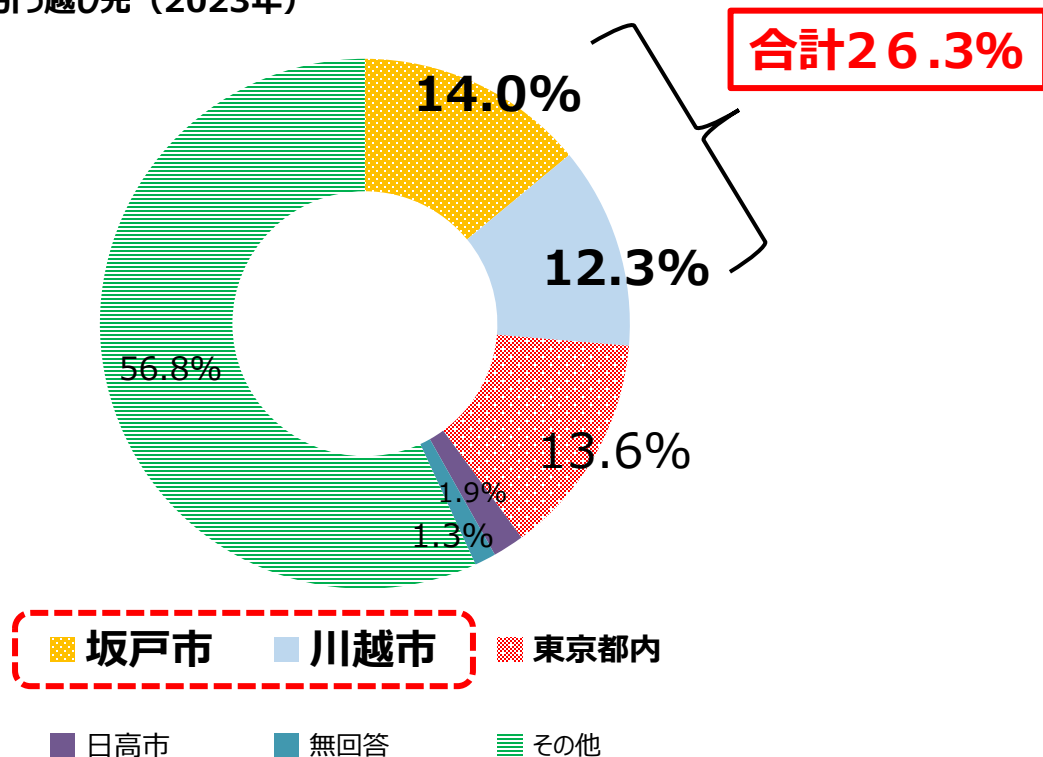
### ■ 年齢：40歳代以下が約 7 割

# 現状【市民意識(転出入者)】

## 引っ越し先 (転出先)

- 転出先は「川越市」「坂戸市」で約 3 割、「東京都内」が約 1 割。
- 年代別では、18～29歳は「東京都内」、30歳代は「坂戸市」が多い。

引っ越し先 (2023年)

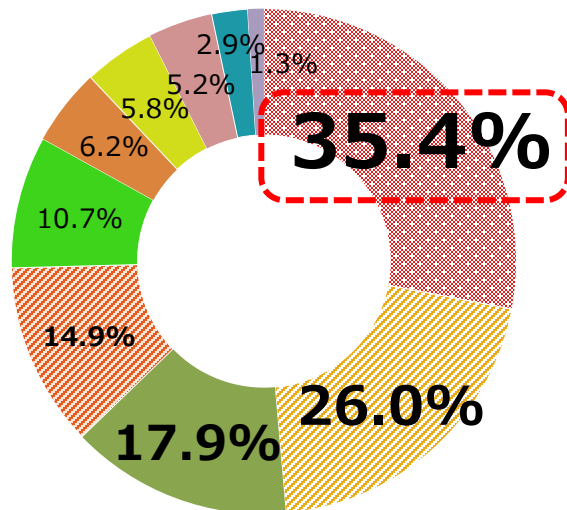


### その他内訳 (上位)

さいたま市	4.2% (13 人)
東松山市	4.2% (13 人)
神奈川県	3.2% (10 人)
横浜市	3.2% (10 人)
越谷市	2.3% (7 人)
所沢市	1.3% (4 人)
上尾市	1.3% (4 人)
毛呂山町	1.3% (4 人)
朝霞市	1.0% (3 人)
加須市	1.0% (3 人)
狭山市	1.0% (3 人)
志木市	1.0% (3 人)

- 「仕事の都合」が約4割、「住宅の都合」が約3割、「家庭の都合」が約2割。
- 18~29歳では「仕事の都合」が約半数(51.9%)を占め、40~60歳代では「住宅の都合」、「家庭の都合」が多い。

### 引っ越しのきっかけ(2023年)



### 仕事の都合(就職・転職・転勤等)

- 住宅の都合(住宅購入、家賃、広さ・間取り等)
- 家庭の都合(親族との同居・近居、親の介護、友人や知人がいる等)
- 結婚
- 居住環境を良くするため
- 親からの独立
- その他
- 出産
- 学校の都合
- 転出先の行政サービスが良かったため

	仕事	学校	結婚	出産	住宅	家庭	居住環境	独立	行政サービス	その他	無回答
18歳~29歳(n=104)	51.9	7.7	15.4	3.8	11.5	9.6	10.6	9.6	1.0	2.9	4.8
30歳~39歳(n=89)	36.0	5.6	27.0	5.6	29.2	9.0	9.0	5.6	2.2	3.4	3.4
40歳~49歳(n=35)	37.1	11.4	8.6	0.0	37.1	25.7	5.7	2.9	0.0	2.9	0.0
50歳~59歳(n=28)	14.3	3.6	10.7	0.0	42.9	28.6	21.4	0.0	0.0	14.3	3.6
60歳~69歳(n=24)	16.7	0.0	0.0	0.0	41.7	45.8	12.5	0.0	4.2	8.3	4.2
70歳~79歳(n=19)	10.5	0.0	0.0	0.0	36.8	31.6	10.5	0.0	0.0	21.1	5.3
80歳~(n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	0.0	0.0	22.2	33.3

- 全体としては、「仕事・通勤・通学に便利だから」が約5割、「住宅条件が良いから」が約4割
- 18～29歳では「仕事・通勤・通学に便利だから」約7割、30～39歳では「住宅条件が良いから」が約6割、40～49歳で「子育て・教育環境が良いから」約2割と比較的多くなっている。

【転出の決定理由〈年齢別（18～49歳）の上位5〉】

順位	18歳～29歳(n=104)	30歳～39歳(n=89)	40歳～49歳(n=35)
1	仕事・通勤・通学に便利だから (68.3%)	住宅条件（住宅価格、家賃、広さ・間取りなど）が良いから (59.6%)	住宅条件（住宅価格、家賃、広さ・間取りなど）が良いから (42.9%)
2	住宅条件（住宅価格、家賃、広さ・間取りなど）が良いから (27.9%)	仕事・通勤・通学に便利だから (51.7%)	仕事・通勤・通学に便利だから (37.1%)
3	交通の利便性が良いから (17.3%)	親族・友人・知人がいるから (16.9%)	親族・友人・知人がいるから (28.6%)
4	親族・友人・知人がいるから (16.3%)	交通の利便性が良いから (15.7%)	子育て・教育環境が良いから (22.9%)
5	以前住んでいたまちだから (14.4%)	買物など日常生活が便利だから (12.4%)	自然環境が良いから (14.3%)

※赤字は50%以上、青字は30%以上。

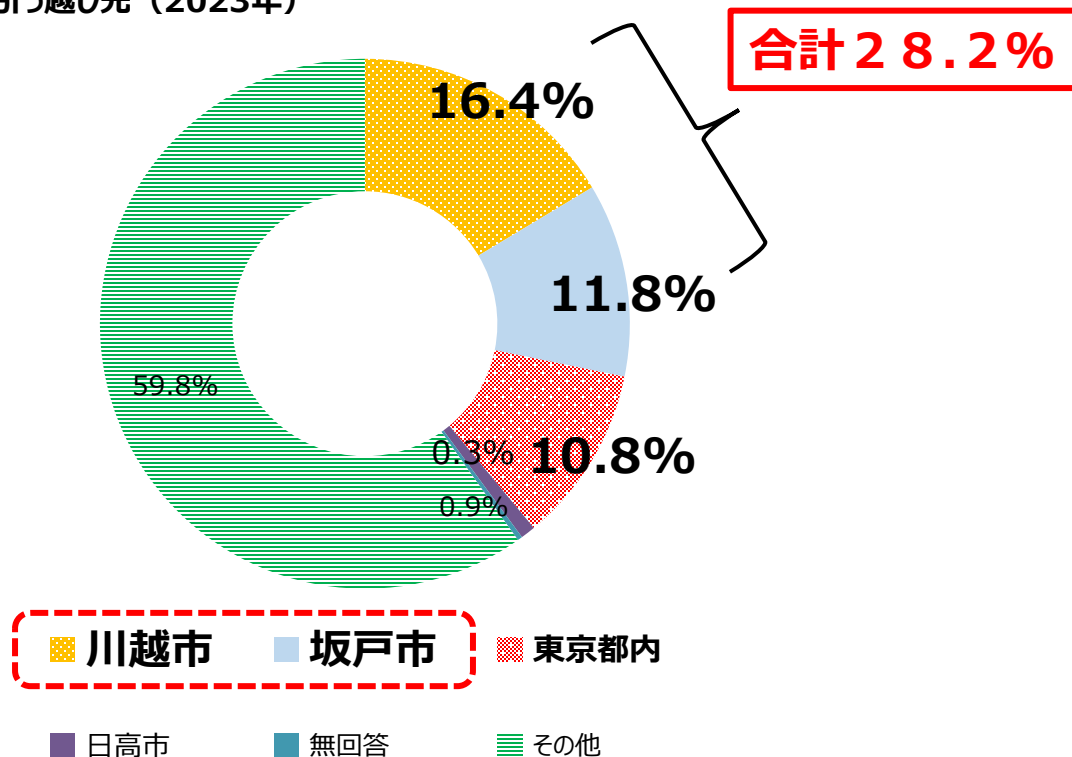


## 現状【市民意識(転出入者)】

## 引っ越し前の居住地（転入元）

- 引っ越し前の居住地は、「川越市」「坂戸市」で約3割、「東京都内」が約1割。
- 転出先・転入元は、ほぼ同じ地域からの出入りとなっている。

引っ越し先（2023年）



### その他内訳（上位）

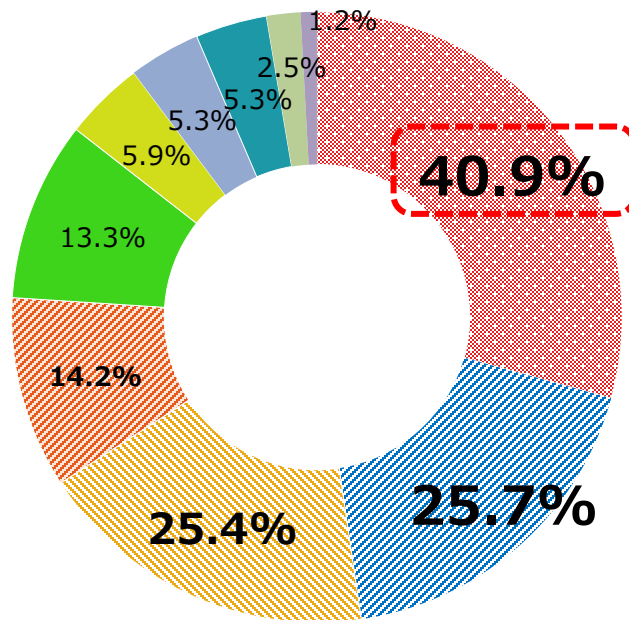
さいたま市	4.0% (13人)
東松山市	3.1% (10人)
ふじみ野市	2.5% (8人)
狭山市	2.5% (8人)
朝霞市	1.9% (6人)
富士見市	1.9% (6人)
毛呂山町	1.9% (6人)
所沢市	1.2% (4人)
和光市	1.2% (4人)
新座市	1.2% (4人)
寄居町	1.2% (4人)
神奈川県	1.2% (4人)
横浜市	1.2% (4人)

## 現状【市民意識(転出入者)】

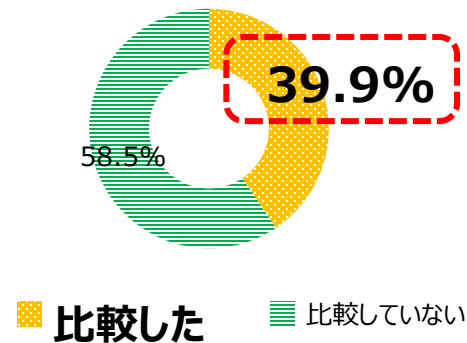
## 引っ越し(転入)のきっかけ

- 「住宅の都合」で鶴ヶ島市に引っ越し(転入)をするケースが多く、約4割を占めている。
- 転入時に他市と比較した割合は約4割。比較対象は、川越市・坂戸市が多く、約3割。

引っ越しのきっかけ(2023年)



他市との比較(2023年)



### 住宅の都合(住宅購入、家賃、広さ・間取り等)

### 仕事の都合(就職・転職・転勤等)

居住環境を良くするため

その他

親からの独立

家庭の都合(親族との同居・近居、親の介護、友人や知人がいる等)

結婚

学校の都合

出産

転出先の行政サービスが良かったため

- 全体としては、「住宅条件が良いから」が約5割、「仕事・通勤・通学に便利だから」が約3割を占めている。
- 18～39歳代では、「親族・友人・知人がいるから」が約3割と比較的多い。

【転入の決定理由〈年齢別(18～49歳)の上位5〉】

順位	18歳～29歳(n=94)	30歳～39歳(n=81)	40歳～49歳(n=38)
1	住宅条件(住宅価格、家賃、広さ・間取りなど)が良いから(58.5%)	住宅条件(住宅価格、家賃、広さ・間取りなど)が良いから(56.8%)	住宅条件(住宅価格、家賃、広さ・間取りなど)が良いから(63.2%)
2	仕事・通勤・通学に便利だから(38.3%)	仕事・通勤・通学に便利だから(42.0%)	仕事・通勤・通学に便利だから(42.1%)
3	親族・友人・知人がいるから(26.6%)	親族・友人・知人がいるから(27.2%)	交通の利便性が良いから(18.4%)
4	交通の利便性が良いから(22.3%)	買物など日常生活が便利だから(19.8%)	自然環境が良いから(15.8%)
5	買物など日常生活が便利だから(21.3%)	交通の利便性が良いから(16.0%)	親族・友人・知人がいるから 治安が良いから 買物など日常生活が便利だから(13.2%)

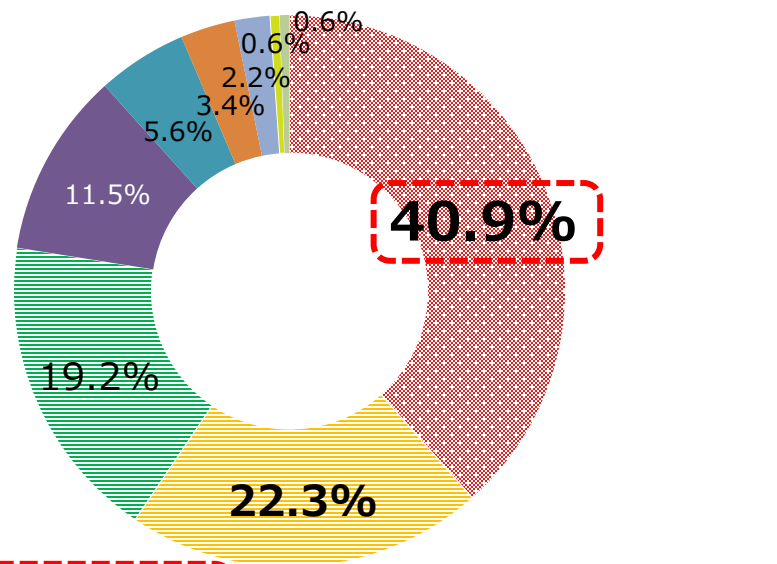
※赤字は50%以上、青字は30%以上。

## 現状【市民意識(転出入者)】

## 鶴ヶ島市を知った理由

- 「以前住んでいた」が最も多く、約4割を占めている。
- 市の行政サービスを調べた割合は、2割未満。うち約3割が30歳代。

鶴ヶ島市を知った理由（2023年）



■ 以前住んでいた（近隣含む）

■ 親族・友人・知人からの紹介

■ 職場や学校からの紹介

■ 鶴ヶ島市のHP・SNS

■ 無回答

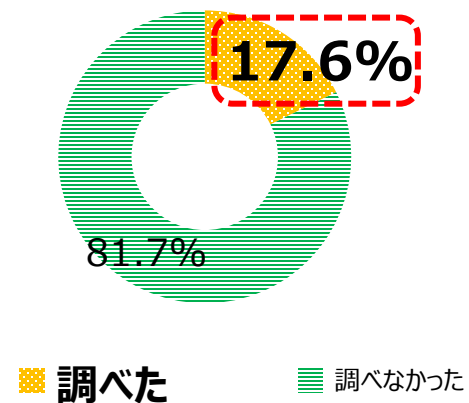
■ 不動産業者からの紹介

■ その他

■ 鶴ヶ島市以外のHPや情報誌等

■ 鶴ヶ島市のプロモーション動画

行政サービスの事前調査（2023年）



■ 調べた

■ 調べなかった

総合計画とは

総合計画の概要

市民意識調査結果

転出・転入アンケート調査結果

**後期基本計画策定に向けて**

市民意識調査結果  
転出・転入アンケート調査結果

基礎調査（データ分析）

前期基本計画の評価

まちづくり審議会

市民意見  
(パブリックコメント)

市議会

後期基本計画（令和7年度～令和11年度）